

こうした感受性、才能は、失わずに持ち続けて欲しい

先日、補講を頼まれ最後の授業をした。

教育活動は、「相互交渉」をし続けるところに本質があると思うので、せめてメール交換を求めてくる学生とは、一人一人の思考につき合おうかなと思い、「授業が終わっても係わり合うよ」と話した。予想以上に多くの学生からメールが届いた。

【 今日で最後の授業だなんて、すごく悲しいです。阿部先生の授業は本当に考えさせられました。 】と書いてきた学生。

授業が終わって「残念」とか、「もっと聞きたかった」というのは多いが、「悲しい」という表現は初めて目にした。

自分たちのようにある程度年を取ったひねくれ者(?)にはこうした状況には思いもつかない表現であり、感受性を持っている学生のよう。

この感受性を失わずに、将来の夢に向かって行って欲しい。

【 これまで約4ヶ月間、私達に貴重なお時間をいただきありがとうございました。

本当に先生の授業は“人生の授業”でした。

私には尊敬する先生が3人います。 ……。

私はわずかな授業の間で阿部先生のことを、とても尊敬いたしました。

『尊敬』という言葉の意味が辞書には「他人の行為などを敬うこと」と載っていますが、私の中では「人生に影響を与え、いつまでも心に残ること」という意味のように感じています。

どうぞこれからも私達に言葉というシャワーを浴びせてください。そして、尊敬という名の花を咲かせてください。今まで素晴らしい授業をしていただき、ありがとうございました。 【 】と書いてきた学生。

この文才の豊かさは、失わずに持ち続けて欲しいものである。

更に早速、それぞれの悩み、迷いを書いてきた学生も数人……。

こうしたメールを目にすると、若者も我々大人と同じように、それぞれの年齢相応に「生きることを考えたい」のだとつくづく思う。

こうした学生の中から何人が、「係わり合い（相互交渉）」を旨とする阿部ワールドの住人となり、いつの日にか巣立って行くのが楽しみ！

(2006年2月8日 記)